

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
総合演習 (Overall Exercises on Civil Engineering )	選	大久保 俊治、 中本 純次、辻原 治	5 学年 環境都市工学科	1	半期 週 2 時間							
授業概要	重要な基礎科目を理解した上で、環境都市工学の専門技術として、「環境工学」「衛生工学」「材料」「橋梁工学」等に関する基礎知識を総合的に復習し、基本的問題の演習を行う。											
到達目標	「環境工学」「衛生工学」「材料」「橋梁工学」などに関する基礎知識を理解できる（C）											
評価方法	演習ノートの内容評価（50％）、Q&A・実施状況（50％）で評価する．60点以上の評価で合格とする．											
教科書等	[教科書] 米田著 土木職公務員試験 専門問題と回答（選択科目編）大学教育出版											
内 容					学習・教育目標							
第 1 週	オリエンテーション				C							
第 2 週	民間企業の概要				C							
第 3 週	公務員の概要				C							
第 4 週	環境工学（水質汚濁）				C							
第 5 週	環境工学（大気汚染）				C							
第 6 週	環境工学（地球環境）				C							
第 7 週	衛生工学（水道）				C							
第 8 週	衛生工学（下水道）				C							
第 9 週	土木材料（鋼材）				C							
第 1 0 週	土木材料（コンクリート）				C							
第 1 1 週	都市計画				C							
第 1 2 週	橋梁工学				C							
第 1 3 週	耐震工学				C							
第 1 4 週	河川工学				C							
第 1 5 週	土木施工				C							
第 1 6 週												
第 1 7 週												
第 1 8 週												
第 1 9 週												
第 2 0 週												
第 2 1 週												
第 2 2 週												
第 2 3 週												
第 2 4 週												
第 2 5 週												
第 2 6 週												
第 2 7 週												
第 2 8 週												
第 2 9 週												
第 3 0 週												
（特記事項）		JABEEとの関連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習 ・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

1．合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2．定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

## 総合演習 5 学年

環境都市工学の基幹技術である「環境工学・衛生工学」「材料・構造工学」について、基礎知識を総合的に身につけるために入社試験、公務員試験等の専門試験問題の演習を行う。主な内容は以下に示すとおりである。

### 1．業種ごとに重要な基礎知識（第1～3週）

種々の民間企業、公務員で重要となる技術や事項を理解する。

### 2．環境工学・衛生工学に関する基礎知識（第4週～8週）

環境計画論的な内容として環境問題の一般論と対策・施策について、水質汚濁、大気汚染、地球環境に区分して、演習を行う。また、環境に関する社会基盤整備に関して、上水道、下水道の各施設の役割と計画手法について演習を行う。このような演習を行うことにより、基礎的な問題解決能力を身に付ける。

### 3．材料・橋梁工学に関する基礎知識（第9～15週）

土木材料（鋼材）、土木材料（コンクリート）、橋梁工学、耐震工学、土木施工、都市計画、河川工学建設一般 について演習問題を実施して、基本的な問題解決能力を身に付ける。